



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和4年1月18日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ キョクリュウガクササエアイスイシンキ

ヨウギカイ

団体名 旭竜学区支え合い推進協議会

所在地

連絡先

フリガナ

代表者氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	旭竜助け合い隊推進事業
事業実施区域(小学校区)	旭竜学区
事業実施回数	新規 ☒ 継続 2回目(令和3年度から)
課題	平成31年2月、学区内在住の65歳以上の人を対象にアンケート調査を行った。その結果、地域の高齢者が、日常の生活の中で、ちょっとしたことで困っていることや、不便だと感じていることが多くあることが分かった。 病院付き添い、買い物、ごみ出し、草取り、家事手伝い、庭の片付け、庭木の剪定、電球の取り替えなどである。 これらは介護保険サービスの適用にならないものが多く、介護保険制度を補完するものとして、地域でサポートする必要がある。
事業の目的	(1) 高齢者にやさしいまちの創造 (2) 高齢者の困りごとの解消 (3) 介護保険制度の補完 (4) 「いつまでも住み続けたいと思う」まちづくり (5) ボランティア精神の涵養 (6) ボランティア活動による生きがいの発見と認知症の予防

事業の内容・感染防止対策の内容	(事業の内容) 前記のような課題の解決と目的のため、令和2年7月、「旭竜助け合い隊」を創設し、同年9月1日から事業をスタートした。令和4年度は3年目に当たる。 その事業は次のとおりである。 病院付き添い、買い物、ごみ出し、草取り、家事手伝い、庭の片付け、庭木の剪定、電球の取り替えなどの支援を希望する場合、助け合い隊のコーディネーターへ電話をし、電話を受けたコーディネーター(4名、1週間で交代)が、登録したサポーター(25名)に電話をし、日程調整をしたうえで、要支援者をサポートするものである。 (実施する感染防止対策の内容・方法) (1) 作業に従事する前に、手指のアルコール消毒と検温を行う。 (2) 会議においても、会議室に入る前に、手指のアルコール消毒と検温を行う。
期待される成果・目標	(1) 高齢者の困りごとの解消 (2) 介護保険制度の補完 (3) ボランティア精神の涵養 (4) ボランティア活動による生きがいの発見と認知症の予防
企画などの工夫	令和3年度は、マグネットシート、ミニコミ誌を全戸に配布してPRしたが、まだまだ制度を知らない人が多い。 令和4年度もミニコミ誌、機関誌を作成し、全戸に配布する。
協働する団体等	(1) 旭竜地区民生委員・児童委員協議会 (2) 旭竜地区社会福祉協議会 (3) その他、事業実施メンバーのとおり

事業の 情報公開	(1) 機関誌の発行（年1回程度） (2) ミニコミ誌の発行（年1回） (3) 公民館だよりへの掲載
学区 地区への 広がり	(1) 令和2年8月、学区内全戸にチラシを配布した（約2,100枚） (2) 令和3年5月、マグネットシートを全戸に配布した（約2,100枚）。 (3) 令和3年9月、ミニコミ誌を全戸に配布した（約2,100枚）。 高島公民館にも置いた（50枚）。 (4) 令和4年2月、機関誌発行予定 (5) 令和4年2月、市民のひろばおかやまに掲載予定 (6) 令和4年9月、ミニコミ誌発行予定 (7) 令和5年2月、機関誌発行予定
前年度からの 見直し拡充点	(1) 現在、コーディネーターは4名である。できれば、もう2名増やしたい。 (2) 現在、サポーターは25名である。できれば、30名にしたい。
次年度以降の 予定	① 次年度以後の活動計画 旭竜助け合い隊事業を継続する。 ② 資金の確保について ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定
その他PR したい点	(1) まちづくりの一環であること。 (2) 「福祉の町・旭竜」を一層充実させるものであること。 (3) サポーターは、ほとんどの人が65歳以上で、高齢者の生きがいになり、認知症の予防になること。

事業スケジュール

月 日	活 動 内 容
4月	助け合い隊サポート事業 支え合い推進協議会
5月	助け合い隊サポート事業 助け合い隊会議
6月	助け合い隊サポート事業
7月	助け合い隊サポート事業
8月	助け合い隊サポート事業
9月	助け合い隊サポート事業 ミニコミ誌発行
10月	助け合い隊サポート事業
11月	助け合い隊サポート事業 支え合い推進協議会
12月	助け合い隊サポート事業 助け合い隊会議
1月	助け合い隊サポート事業
2月	助け合い隊サポート事業 機関誌発行
3月	助け合い隊サポート事業

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	決算見込み額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	194, 000	66, 000	(100 円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	24, 406	60, 000	
連合町内会補助金	46, 000	0	
協賛金		0	
雑収入	0	0	
計	264, 406	126, 000	

◆ 支 出

単位:円

項 目	決算見込み額	予 算 額	内 容
① 消耗品費	172, 000	30, 000	ベスト(3,000 円×5 着=15,000 円)、事務用品(15,000 円)、
② 印刷製本費	35, 000	32, 000	機関誌(15,000 円×1 回=15,000 円)、ミニコミ誌(12,000 円×1 回=12,000 円)、コピー代(5,000 円)
③ 通信運搬費	46, 000	46, 000	携帯電話通話料金(3,282 円×12か月=39,384 円≒40,000 円)、切手代(6,000 円)
④ 保険料	3, 600	9, 000	ボランティア保険(18 円×500 人=9,000 円)
⑤ 手数料	2, 530	3, 000	振込手数料(3,000 円)
小計(①)	259, 130	120, 000	
⑥ 新型コロナウイルス感染防止対策経費	5, 276	6, 000	アルコール消毒液、マスク、非接触型体温計
小計(②)	5, 276	6, 000	
支出合計(①+②)	264, 406	126, 000	

◆概算交付の可否(いずれかに○をしてください)。

補助金(3/4)の概算払いを	<u>希望する</u>	希望しない
----------------	-------------	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

令和4年度上半期の事業運営費が不足するため。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。